

2017年9月26日

九州旅客鉄道株式会社
代表取締役 青柳俊彦殿

日本共産党中部地区委員会
委員長 川畑 哲男
日本共産党大分市議団
団長 福間 健治

大分市内8駅の無人化撤回等を求める申し入れ

8月中旬、JR九州は大分エリアにおける駅遠隔ご案内システム(スマートサポーステーション)の導入を検討していることを明らかにしました。

対象エリアは日豊本線が「牧駅から幸崎駅」、豊肥本線が「中判田駅から滝尾駅」として、各駅に導入し、始発列車から最終列車まで、お客様へのご案内をおこなうとのことです。実施は来年の3月を予定していると聞き及んでいます。

対象駅10駅の内、現在「駅係員」の配置されている8駅も、駅係員による窓口業務は廃止され、バリアフリー化が計画されている大在・鶴崎・高城駅も無人駅の対象とされています。大分市内では、大分駅、西大分駅、南大分駅以外はすべて無人駅となります。

高齢者・障害者など利用者からは、「何かの際に手助けを求める係員がいなくなるのは困ります」「係員がいることが一番のバリアフリー化です」「駅舎の適正管理や安全・防犯などが心配です」などの声が寄せられています。利用者の利便や安全性の確保のためには、到底受け入れることはできません。

だれもが安心して利用できるJR駅が住民の切実な願いです。利用者の利便と安全を守るためには、駅のバリアフリー化とともに、「各駅に駅係員の適切な配置」がなによりも重要です。

JR九州は、安全・安心第一の公共交通事業者として社会的責任を果たされることを強く求めるものです。

つきましては、下記事項について申し入れます。善処方をお願いします。

記

- 1 大分市内8駅の無人化計画を撤回すること。
- 2 無人駅となっている幸崎駅などに「駅係員」を配置し、利用者の利便・安全を守ること。

以上